

第2回 幼・保・小合同研修会

とき 令和3年6月15日(火) 午後3時～午後4時40分

ところ ニコニコこども館 3階 研修室 <オンライン研修>

「子どもの理解と援助の在り方」 ～安心感の基地としての教師や保護者の役割～

講師：筑波大学人間系 教授 安藤 智子 先生

講師の安藤先生の専門は、発達臨床心理学で、子育てをしている家庭の精神的健康に関する要因とその子育てへの影響、幼稚園での預かり保育、成人期の愛着と子育て、特定疾患患者やその家庭支援などの研究をされています。

第2回の合同研修会では、「子どもの理解と援助の在り方」をテーマに教育講演をいただきました。安藤先生の研究・実践より、新生児からの早期環境や、保護者や保育士、教師との信頼関係が、その子の発達にとっても重要であることを資料や動画をもとに、教授いただきました。

<講演より>

- (1) 子供の行動から感情を推測する。(子供の視点に立って物事を見る。保育士や教師の感性や洞察力をもって観察することが重要。)
- (2) アタッチメント欲求に寄り添う。(アタッチメント…保護してもらえる信頼感)
- (3) 探索欲求に寄り添う。(保育士や教師は、子供の「試行錯誤」に対し、興味をもって見守る。)

【人生早期の環境の重要性】

- ◇ 早期環境が相当重要である。
- ◇ 社会的要因(人・生活)の果たす役割が大きい。
- ◇ 発達は、動的で可塑的である。
(可塑的…思うように形づくれること)

<新生児の発達、成長>

- 自ら「環境」に働きかける。
- 「世界」を理解しようとしている。
- 受け身から、相互作用へ。

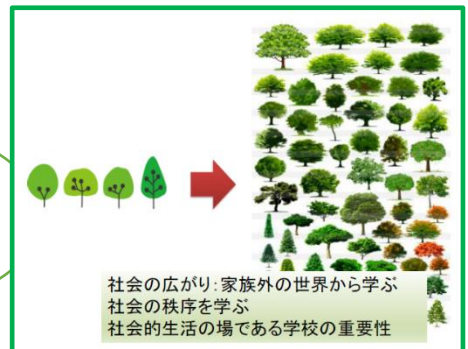
【アタッチメント…乳幼児の視点】

- ◇ 困ったと信号を出せば、パパ・ママは様子を見てくれる。だから大丈夫。(安定型)
- ◇ 困ったと信号を出すと、気がつかない時もあるので大きな声を出さなきゃ…。(不安定)
- ◇ 困ったと信号を出すと、パパやママは嫌がって逃げるから、黙っていよう。(回避型)

【保育士・教師にできること】

<安心感の輪～子どもの欲求に目を向けよう～>

- | | |
|---------------|------------|
| ◇ 安全な避難所 | ◇ 安心の基地 |
| ・ 守ってね | ・ 見守っていてね |
| ・ 慰めてね | ・ 大好きって見てて |
| ・ 大好きって受けとめて | ・ 手伝ってね |
| ・ 気持ちを落ち着かせてね | ・ 一緒に楽しんでね |



- ◎ いつでも：子どもより大きく、子どもより強く、子どもより賢く、そして、優しい存在でいよう
- ◎ できるときは：子どもの要求に応えよう ◎ 必要なときは：毅然と対応しよう

【参加者のアンケートから】

- ・ 私達の役割は何かを改めて見直すことができました。
- ・ 改めて、アタッチメントの重要性を感じました。子どもの発達の重要な時期に関わる者として責任感と愛情、そして学ぶ心を持って保育をしたいと思います。
- ・ 動画での説明は、とてもわかりやすくよかった。
- ・ 日々の保育をする中で本日学んだことを意識して子ども一人一人に関わり、保護者と接していきたい。